

飲み放題

先日、ある国にいる友だちと連絡をとりました。彼女は、数年前、日本に住んでいました。彼女はいつも「早くまた日本に行きたい」と言っています。わたしは彼女に、「日本の何が、いちばん恋しい？」と聞きました。彼女はすぐに「飲み放題！」と答えました。「飲み放題」は、居酒屋やカラオケ屋がやっているサービスの一つです。一定の金額を払えば、一定の時間、好きなだけ飲み物を注文することができます。

例えば、ある居酒屋では、1,500円払えば、2時間、好きなだけ飲み物を注文することができます。想像してみてください。あなたはその居酒屋に入りました。お店の人があなたに聞きます。

「飲み放題にしますか？ 単品にしますか？」



「単品」というのは、注文したぶんだけお金を払うということです。例えば、1杯400円のビールを3杯飲んだら、1,200円払います。

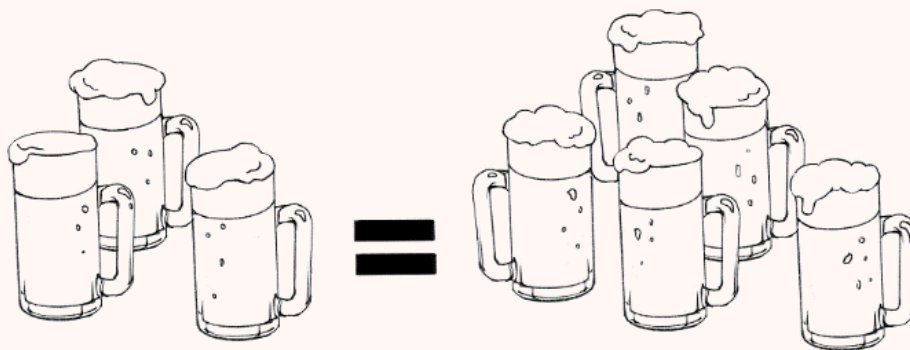
もし、あなたが(わたしのよう)にビール好きで、2時間でたくさん飲むなら、「飲み放題」をお願いしたほうが得です。でももし、あまり飲まないなら、お店の人に「単品をお願いします」と言ったほうがいいでしょう。

わたしはビールが大好きなので、2時間で8杯くらい飲みます。もし、「単品」でお願いしたら、400円^{かける}×8杯で、3,200円も払わなければなりません。でも、「飲み放題」でお願いしたら、1,500円だけで済みます。「飲み放題」は、ビールだけではなく、いくつかのワインや日本酒、ジュースなども選ぶことができるので、飲むことが好きな人にとっては、とてもうれしいサービスです。

ところで、この「飲み放題」のサービスは、お店にとっても、うれしいサービスなのでしょいか。

1杯400円のビールの原価は、150円くらいだそうです。原価というのは、商品をつくるための材料や、その商品をつくったり売ったりする人の給料などにかかるお金です。1杯400円のビールでは、150円が原価で、250円が居酒屋の利益になります。もし、お客さんが「単品」で、3杯注文したら、居酒屋は250

円 × 3杯で、750 円の利益を得ることができます。もし、お客さんが「飲み放題」で5杯注文したら、どうでしょう。お客さんが払うのは1,500円です。5杯ぶんの原価は150円 × 5杯で750円です。だから、居酒屋は1,500円 - 750円で、750円の利益を得ることができます。つまり、「飲み放題」のお客さんが5杯飲んだときの利益と、「単品」のお客さんが3杯だけ飲んだときの利益は同じになります。



単品

飲み放題

Sasaki Akino

もし、この居酒屋で、「飲み放題」をお願いして、ビールを10杯飲んだら、どうでしょう。10杯ぶんの原価は1,500円になりますから、居酒屋の利益はなくなってしまう。でも、実際には、そんなにたくさん飲む人はあまりいないので（時々いますが）、居酒屋の利益がなくなることは、ほとんどないそうです。

さて、この話の最初に出てきた友だちはというと……。

ビールが大好きなので、2時間で10杯以上は飲みます。彼女にとっては「飲み放題」はとてもうれしいサービスですが、居酒屋さんにとっては彼女は「来てほしくないお客さん」かもしれません。

(1241 字)

(2021.12 Written by Junko SATO)

(All pictures are drawn by Akino SASAKI)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.